



23 TOKYO

区政会館だより

No.323

平成29年 2月

足

立

区



志賀高原ユネスコパークで行われた
青空キャンプ体験ツアー。豊かな自然
の中、トレッキングで汗をかきました

特別区長会事務局
特別区議会議長会事務局
特別区人事・厚生事務組合
公益財団法人特別区協議会
東京二十三区清掃一部事務組合
特別区競馬組合

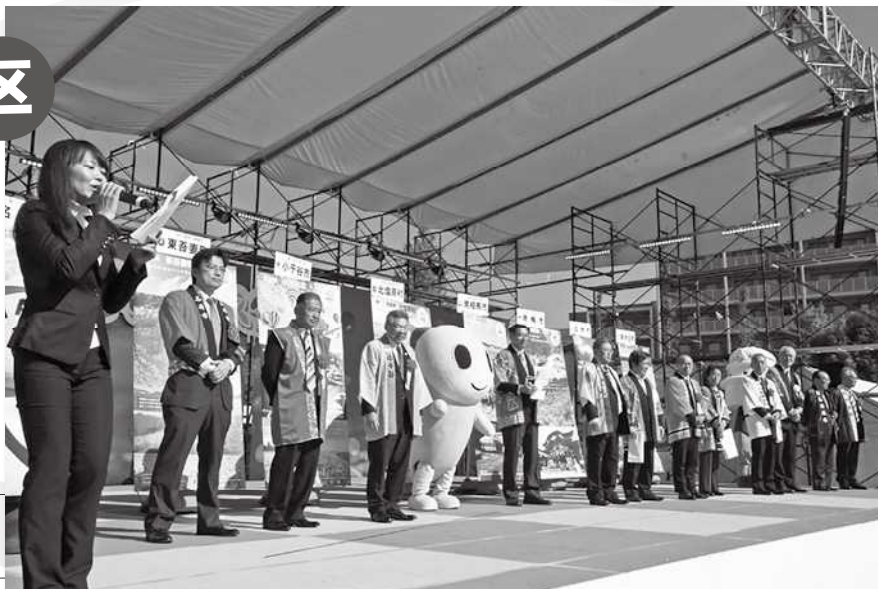
全国につながる
連携の輪

環境を切り口とした新連携

杉

並

区



スクラム支援会議をきっかけに交流の輪が広がる
(昨年11月の交流自治体特産品フェスティバル)

攻めの自治体間連携で共存共栄を

栃木県鹿沼市での親子体験ツアー。5月の田植えでは裸足で水田に入り、苗を植えました



全国につながる
連携の輪 足立区

環境を切り口とした新連携

23区では地球環境の保全に向けた様々な取り組みが行われていますが、大都市部でできることには限界があります。特に生物多様性や生態系の保全、森林整備による地球温暖化対策などは、23区の区域内では難しい面があります。足立区では、区内では難しい環境保全への取り組みを、友好都市との地域連携という形で始めました。昨年から環境を切り口とした親子体験ツアーを実施し、参加者からも好評を得ています。また、今年2月には友好都市の一つである新潟県魚沼市のオフセット・クレジットを活用した地球温暖化対策と森林保全の取り組みを始めます。

親子体験型ツアーで自治体交流

「わあ、美味しい！」

昨年12月4日、栃木県鹿沼市で、地元の収穫祭に参加した足立区の親子から、感嘆の声が上がりました。脱穀したそばの実が、名人お手製鹿沼名物の新そばに早変わり。自分たちでついたお餅と併せて、自然のありがたみを舌で体験しました。

足立区の友好都市である鹿沼市で行われた今回の「親子米作り体験in鹿沼」は、足立区の親子に農業体験をしてもらおうと鹿沼市の協力を得て企画されました。5月の田植えから12月の収穫祭までの間に、計3回現地を訪れ、地元農家の方々の指導

による農業体験を通して豊かな自然を感じてもらおう企画です。昨年に引き続き2回目の開催となりましたが、定員40人のところ、51組160人もの申し込みがありました。

5月の田植えでは裸足で水田に入り、泥の感触を楽しみながら苗を植えました。田植え機に乗ったり、生きものを捕まえたりと初めての体験に夢中になっている子ども達のそばで、お父さんやお母さんも童心にかえって楽しんでいました。

9月の稲刈りでは、田んぼ一面に広がる稲穂に心躍らせながら、自ら鎌を使って稲を刈り、刈った稲を束

ねて干す「はでかけ」も体験。稲刈りの後にごちそうになった新米で作ったおにぎりの味は格別だったようです。

環境をテーマにした鹿沼市のツアーは他にもあります。「きこり体験ツアー」というユニークな企画が鹿沼市内にある「21世紀林業創造の森」で開催されました。ツアー名からは想像できないほど本格的な企画で、森林保護に関する講話や伐採見学から林業機械の操作、間伐材を使った椅子作りまで体験できるというものです。参加希望者も定員の10倍を超える631人と、山や森林といった自然への関心の高さが伺えます。

体験共有して環境意識高める

友好都市の一つ、長野県山ノ内町の志賀高原ユネスコエコパーク内で8月に「青空キャンプ体験ツアー in 志賀高原」（1泊2日）が行われ、足立区内の18組の親子が参加しました。ユネスコが認定する「ユネスコエコパーク（生物圏保存地域）」とは生態系の保全と持続可能な利活用の調和（自然と人間社会の共生）を

目的にしているもので、志賀高原は1980（昭和55）年にユネスコエコパークとして認定されました。

このツアーの目玉は「キャンプ体験」。トレッキングで汗をかき、みんなで協力してテントを設営。ナイトハイクでの星空観察では満天の星を観ることができ、自然を知り、大切にすることを育むツアーとなりました。大自然に囲まれた場所での体験

青空キャンプ体験ツアーでは、みんなで協力してテントを設営。夜は星空観察で満天の星を観ることができました



は、都会っ子たちにとって、夏休みの貴重な思い出となったことでしょう。

紅葉が見ごろになった10月には、新潟県魚沼市での「秋のおぬま大自然ツアー」（1泊2日）も行われました。奥只見ダムや水力発電所を見学し、遊覧船から奥只見湖の自然を鑑賞。森林散策や炭焼き体験、雪むろ見学など、こちらも盛りだくさんの内容で、参加者は文字通り大自然を満喫していました。

いずれのツアーも、抽選となるほど大好評で、区の担当者は「自宅に帰ってから家族で体験したことを話し合い、地球環境問題に対する意識を高めることにつながれば」と区民への啓発という効果に期待しています。

これら三つの友好都市とは、これまで長きにわたり友好関係を築いてきましたが、特産品の販売など産業振興や観光等の視点が主でした。

そんな中、2013（平成25）年、足立区が参加している環境に関する全国約50自治体のネットワーク「環境自治体会議」に魚沼市が参加したことをきっかけとして、友好都市と

の環境面での連携を検討し始めました。その翌年、特別区長会が全国連携プロジェクトをスタートしたこともあって、連携・交流の機運が高まりました。

ツアーに参加した親子が身近な環境問題に関心を持つということだけでなく、足立区にはない地域資源がある友好都市との交流を通じて、「もう一度行ってみよう」「あのお米をまた食べてみたい」「将来は移住したい」という気持ちになれば、友好都市にとっても価値ある取り組みと言えるでしょう。

区と友好都市がお互いに共存共栄の関係を築けるかもしれません。

森林吸収系クレジットを利用

足立区は2014（平成26）年度から、地球温暖化対策や森林保全の大切さを啓発することを目的として、区の事業活動に伴って排出する二酸化炭素（CO₂）について、カーボン・オフセットを実施しています。カーボン・オフセットとは、自らの活動により排出するCO₂について削減努力をしても削減できない排出量の全部または一部を、他の場所



奥只見ダムや水力発電所の見学、炭焼き体験など盛りだくさんだった「秋のおおぬま大自然ツアー」



も森林の手入れが進むことで、単にCO₂の吸収を増やすだけではなく、林業の活性化や産業振興などにつなげることができます。

足立区で難しいことは自治体間連携で

きれいな空気や水をつくり出す豊かな森林や生態系を足立区内で体験し、実感することは困難です。親子体験型ツアーやカーボン・オフセットの取り組みを通じた友好都市との連携により、区民の自然に対する理解を深め、環境への意識を変えることにつながり、ひいては地球環境問題を更に広い視野で見ることにもなるでしょう。連携先の自治体としては、この取り組みをきっかけに、再び訪れてもらうことも期待されているところです。

今後も、日々の生活の中で自然保護や環境について考えてもらえるように、様々な企画が予定されています。これらの取り組みを通じて、友好都市との地に足がついた連携も深まっていくことが期待されます。環境を切り口とした足立区の自治体間連携はスタートしたばかりです。

でのCO₂排出削減・吸収量（クレジット）で埋め合わせ、相殺することです。クレジットには排出削減系と森林吸収系がありますが、足立区では、区内で取り組むことが難しい森林吸収系のオフセット・クレジットを活用しています。

2016（平成28）年、魚沼市の「雪の恵み、土の想い、森の夢くみ」などつなぐ命の環く魚沼わくわくの森プロジェクト」が、新潟県版J

ークレジット制度に登録されたことにより、魚沼市が森林吸収系のオフセット・クレジットを発行できる

ようになりました。足立区では魚沼市のオフセット・クレジットの活用第一号として、カーボン・オフセットの取り組みを進めます。

具体的には、2017（平成29）年2月の1カ月間に区役所本庁舎の電気・都市ガス使用に伴い排出されるCO₂を魚沼市ほか三つの自治体から森林吸収系のオフセット・クレジットを調達してゼロにします。

毎年2月は省エネ月間であることから、「省エネ月間パネル展示」を実施し、省エネの啓発を行っています。今回は、地球温暖化対策の手法

の一つとしてのカーボン・オフセットの仕組み、CO₂吸収や国土保全等森林の役割の啓発、魚沼市他三つの自治体の森林保全の取り組みなどについても分かりやすくPRしていく考えです。

魚沼市は、広大な森林を有していますが、木材価格の低迷や過疎化・高齢化に伴う担い手の減少などにより、一部には森林の手入れが行き届かないところもあります。カーボン・オフセットによって、足立区にとっては地球温暖化対策や森林の大切さの啓発につながり、魚沼市にとって